

---

今こそ、情報公開法を使って関連文書の全面公開を実現させよう！

## 日韓会談文書・全面公開を求める会 ニュース

第50号（2016年5月8日）

---

公開シンポジウムを  
6月26日に開催し  
ます。新たに外務省  
の日韓会談文書の開  
示がありました。

### 目次

- 1 役員会報告等
- 2～3 新たな開示文書の紹介
- 4 公開シンポ案内・カンパのお願い

4月24日に今年度最初の役員会を開催し、2015年度総会で確認された、6月の公開シンポジウムの内容や解散総会までの日程等を議論しました。すでに前号のニュースでお知らせしましたとおり、公開シンポジウムの開催日は6月26日（日）午後1時半より、会場は港勤労福祉会館です（4面に案内掲載）。ジャーナリストにもパネリストに加わっていただき、「日韓条約と『日韓合意』をつなぐもの」をテーマに、昨年12月の「慰安婦」問題での「日韓合意」について考えていきたいと思えます。会員の皆様、振るってご参加ください。

また、昨年から今年にかけて、当会事務局次長の李洋秀さんが請求していた新たな日韓会談の関連文書の開示がありました。一部が開示であったため、異議申し立てを行いました。これらの文書はすでに開示された文書を手掛かりに請求したのですが、外務省がまだまだ開示していない文書を保管している可能性を示唆するものです（2～3面）。

アーカイブス設立については、共同代表のご尽力で財政的な基盤が整い、この夏頃からいよいよ文書データの整理作業に入る予定です。

# 外務省に「日韓会談に関する文書」を請求して

事務局次長 李 洋秀(イー・ヤンス)

「求める会」が発足し、二度の勝訴で開示させた日本側文書は6万頁(まだ黒塗り部分が多く残っていて、不満はあるが)もあり、これを全部読むのは容易でない。1916あるファイルのうち、当初から私が注目していたのは、「日韓国交正常化の記録 総説 第1～16章」だ。これは会談が終った3年後の68年8月に発足した「日韓国交正常化編纂委員会」が2年6ヵ月かけて作成したもので、他では見られない担当者の手記や談話・回顧録が含まれている。他の膨大な資料を無視して、これさえ読めば15年間にわたる日韓会談の様子がすべて俯瞰できるので、大変便利だ。

結構、親切に「総説」の目次欄には、「交渉担当者の手記や談話」の一覧表が、詳しく載っているので、開示請求してみたら何か反応あるのではと思い、昨年12月1日外務省の情報公開室を訪れ、上の「手記や談話」の題目と執筆者の名前を書いて提出してみた。

すると「開示請求番号2015-00518で請求を受付け、12月31日を期限として開示決定をする。ただし、期限を延長する場合がある」という通知が、書面で送られて来た。それに続き12月7日付で「1月30日までに相当の部分について開示決定を行い、残りの部分については、3月24日までに部分開示決定等を行う予定です」という通知が届いた。

しかしこちらが請求したファイルは28なのに、外務省から印刷して送られて来た「開示請求のあつ行政文書」の表には22しかなかった。不思議に思い電話で問い合わせたところ、素直に手続上の過ちがあったと認めて、「記載漏れがありましたところ、追記した受付書及び延長通知書を再送付させていただきます。大変申し訳ございませんでした。」という12月28日付の書面が届けられた。

そして「交渉全般」の1から6までのファイル、313枚が黒塗りなしで1月29日付で開示された。

まだ全部の内容を精査してないので、内容をどう評価するかは難しいが、ファイル番号1の松本俊一「第1次日韓会談当時の回想」か?この内容は既に開示された文書番号1125「日韓国交正常化の記録総説第2章」の120頁に引用されていて、印象深かった。次の部分だ。

「梁(裕燦)大使はアメリカ育ちで、韓国語も日本語もわからないという妙な交渉で、会議ははじめからごちなかつた。梁大使は悪い人ではないが、何分にも韓国語もできない位だから韓国の実情がわからない。」という所だ。

この引用された原本が今回開示された。面白かったのは、本人の紹介。

「私の父は貴族院議員で、松本組をやっている明治36年(1903)に韓国の京釜鉄道建設に

携わり、・・・北朝鮮の清津から会寧までの軽便鉄道の経営もしており、あの辺の鉄道工事はほとんど父の会社の手で行われた。私も学生時代から夏休みなどには朝鮮にしょつ中行っており、清津、会寧、京城などはよく知っていた。(4～5頁)」と、朝鮮通を自認する。

そして1952年4月25日に会談が中絶する直前の松本の回想に続く。

「漁業問題で思い出すのは、ある日パーティーのお料理に魚が出た時のことである。韓国人はさばを食べないことを私は知っていたから、『韓国の漁業交渉は両方の国民の魚に対する嗜好がちがうから割にまとまりいいんじゃないですか』と何気なくいったら、向うの代表の1人(これが誰かは不明)が憤然として『日本は40年間、韓国を占領して、さばのようないい魚を韓国人に食べさせなかった。韓国人はさばを食べないことはない』と言った。こういう空気ではと私は呆れてしまった。(14頁)」

残る22のファイル1234枚は3月24日付で最終開示されたが、余りに黒塗りの不開示部分が多く、「求める会」の内部で相談して「異議申し立て」をすることにした。特に22の平賀元民事局長にきく「法的地位交渉の回顧」がひどい。「協定永住」等90年に廃止され死語なのに、それ程悪い待遇をしたことが証明されることを嫌っているようだ。

それでもファイル27黒田瑞夫「私の関係した日韓交渉の歴史」(未定稿)「1957年頃だったと思うが日韓漁業水域での日本漁船の操業による水揚げ高は約30億円である。他方北洋漁業の水揚げ高はざっとその10倍300億円だ、という話を聞いたことがある。日韓漁業は紛争の大きさに比較して、かかっている経済的利益は北洋漁業よりずっと小さかった。竹島に至っては、わかめ、さざえの漁獲が年に50万円位あるだけだと聞いたことがある。(42～44頁)」の部分は、今でも重要だ。

他にも外交史料館に出向けば、こちらから請求していない文書が少しずつ開示されている。私は2004年6月にも「第6次日韓全面会談における一般請求権第11回会合」回議録を請求したことがある。結果は出席者名簿2頁だけという惨憺たるものだったが、今は文書番号1221で18頁全部が開示された。

昨年も「竹島密約」をめぐる文書類を請求したところ、直接的なものはないが、その当時の外交記録は結構出て来た。

まだまだ黒塗りの不開示部分が多く不満が残る外務省の文書開示だが、座視して何もしなければ、向うも何もしない。こちらから何か行動を起せば、決して無駄足ではないことが実感できた、今回の開示請求だった。

多くの方が気軽にどんどん出かけて、開示請求することをお勧めしたい。

## 公開シンポジウム

「日韓条約と『日韓合意』をつなぐもの—真の解決とは何か—」

【日時】 2016年6月26日（日）午後1時半～4時40分（1時間開場）

【会場】 港勤労福祉会館第1洋室（JR田町駅下車徒歩5分、都営地下鉄三田駅すぐ）

【参加費・資料代】 500円

◎問題提起「日韓条約と『日韓会談』をつなぐもの」…吉澤文寿共同代表

◎パネリスト

キル・ユンヒョンさん（ハンギョレ新聞東京支局）

渡辺美奈さん（アクティブ・ミュージアム 女たちの戦争と平和資料館（wam）事務局長、）

他、交渉中。

## 公開シンポ成功、ホームページ維持基金への支援 カンパにご協力をお願いします！

「求める会」では、6月26日開催の公開シンポジウムの成功、ならびに、アーカイブス設立まで現行ホームページを維持するための基金のための支援カンパへのご協力を呼び掛けています。一口1000円です。同封の振込用紙をご利用ください。

郵便振込口座 00820-7-102287 名義 日韓会談文書・全面公開を求める会

## 日韓会談文書・全面公開を求める会

共同代表：太田 修 田中 宏 吉澤 文寿

（事務局）

160-0004 東京都新宿区四谷3-3 エスパスコンセール4F

J&K法律事務所気付 TEL：090-9204-7607 FAX：03-5241-9906

E-mail：nikkanbunsho2012@yahoo.co.jp

HP <http://www.f8.wx301.smilestart.ne.jp/>